

科目名	国際文化演習ⅡB				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	文化学部	配当年次	4 年次
教員名	上田 真啓			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

「国際文化演習Ⅰ（ⅠA・B）」および「国際文化演習ⅡA」において学んできた、現代インドが抱える諸問題（ジェンダー、教育、政治、宗教等）やインドの多様な文化・歴史について、これまでに学んできた内容を踏まえ、それぞれが関心を持つテーマをさらに深化・発展させます。具体的には、各自が自分なりの問いを設定し、文献調査やフィールドワーク等を通じて探究を進め、自分なりの結論を導き出すことを目指します。最終的には、その成果を卒業レポートとして作成・提出し、自分なりの「インド観」の構築および創出を目標とします。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

クラス全体でのディスカッション、2～3名ずつのグループに分かれて行うグループワークを取り入れる他、受講生それぞれに複数回のプレゼンテーション（個人発表）を行ってもらいます。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

状況に応じてオンデマンド授業を行うことがある。オンデマンド授業は、moodleを通じて動画を配信する。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 夏期休暇中の活動成果の報告

第2回 卒業論文の概要発表／卒業論文執筆に向けて（1）

第3回 卒業論文の概要発表／卒業論文執筆に向けて（2）

第4回 卒業論文の概要発表／卒業論文執筆に向けて（3）

第5回 卒業論文執筆にむけて（4）

★オンデマンド 卒業論文の書き方（まとめと補足、配信日時については授業内およびmoodleで周知する。）

第6回 秋学期個人発表（1）

第7回 秋学期個人発表（2）

第8回 秋学期個人発表（3）

第9回 秋学期個人発表（4）

第10回 秋学期個人発表（5）

第11回 秋学期個人発表（6）

第12回 秋学期個人発表（7）

第13回 卒業論文提出直前発表会（1）

第14回 卒業論文提出直前発表会（2）

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回 夏期休暇中の活動成果報告

【事前学習】夏休みの成果を報告できるよう準備しておく。参考文献リストの内の1冊以上を読み、インドの文化・社会・宗教等について予備知識を得ておく。

【事後学習】授業時に配布されたレジュメを再読する。

第2回 卒論アウトライン発表／卒論執筆に向けて（1）

【事前学習】卒業論文のアウトラインについて自分で説明できるように準備しておく。

【事後学習】発表者の発表レジュメを再読する。

第3回 卒論アウトライン発表／卒論執筆に向けて（2）

【事前学習】卒業論文のアウトラインについて自分で説明できるように準備しておく。

【事後学習】発表者の発表レジュメを再読する。

第4回 卒論アウトライン発表／卒論執筆に向けて（3）

【事前学習】卒業論文のアウトラインについて自分で説明できるように準備しておく。

【事後学習】発表者の発表レジュメを再読する。

第5回 卒業論文執筆に向けて（４）

【事前学習】これまで発表した内容を振り返り、卒業論文でどのようなテーマを設定するかを具体的に考え始める。

【事後学習】授業時に配布したプリントを再読する。

★オンデマンド 卒業論文の書き方（まとめと補足）

【事前学習】参考文献『これからレポート・卒論を書く若者のために』の一部または全体を読み、卒業論文を書く際のコツや留意事項について予習しておく。

【事後学習】発表資料の作成を進める。

第6回 秋学期個人発表（１）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第7回 秋学期個人発表（２）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第8回 秋学期個人発表（３）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第9回 秋学期個人発表（４）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第10回 秋学期個人発表（５）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第11回 秋学期個人発表（６）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第12回 秋学期個人発表（７）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第13回 卒業論文中間発表会（１）

【事前学習】これまで発表した内容と新たに付け加えた内容を編集し、学術論文（序論・本論・結論）の形に整える。完成度は最終提出版の70%程度を目標とする。

【事後学習】発表者の発表資料を再読する。

第14回 卒業論文中間発表会（２）

【事前学習】これまで発表した内容と新たに付け加えた内容を編集し、学術論文（序論・本論・結論）の形に整える。完成度は最終提出版の80%程度を目標とする。

【事後学習】発表者の発表資料を再読する。

授業の到達目標／Expected outcome

- ・現代インドの諸思想・宗教・文化・歴史などにおいて、特定のテーマ・領域について正確で深い知識を有し、調査・研究を行うための方法論（関連資料の読解、言説分析、フィールドワークの方法等）を身につけることを目指す。
- ・インド思想・文化に関する調査・研究、発表、ディスカッション等を通して、多様な価値観、プレゼンテーショ

ン・コミュニケーションスキルを身につけることを目指す。

・グローバルな視点からインド思想やインドの国際的な立場を理解し、その特色や重要性を世界に向けて発信できるようにする。

・2年間の集大成として卒業論文(20000字相当)を作成・提出することを最大の目標とする。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|------|---------------|
| ・主体性 | 専門知識・専門技能 |
| ・発信力 | 【文化学部 国際文化学科】 |
| | ・人文学に関する知識 |
| | ・地域文化に関する知識 |

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・無断欠席は厳禁とする。やむを得ない事情で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
- ・ディスカッション時は、積極的に発言すること。
- ・一人一人がゼミに不可欠な一員であることを自覚して、協調性をもちながらゼミを盛り上げるように務めること。
- ・同担当者による「インド思想」「インドの言語と文化」をあわせて履修することが望ましい。

評価方法／Evaluation

平常点（授業への参加度、課題に取り組む姿勢、発表内容、プレゼンテーション、ディスカッションの発言、ゼミへの貢献度）60～70%、学期末レポート30～40%

教 材／Text and materials

授業時にレジュメを配布する。主な参考文献は以下のとおり。

- ・木下是雄『理科系の作文技術』，中央公論新社，1981
- ・酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版，共立出版，2017
- ・戸田山和久『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』，NHK出版，2022
- ・田中草大『#卒論修論一口指南』，文学通信，2022
- ・伊藤貴之『生成AIを活用したレポート・論文の書き方』，慶應義塾大学出版会，2026
- ・宮本常一・安溪 遊地『調査されるという迷惑』増補版，みずのわ出版，2024
- ・山崎元一，『インド社会と新仏教』，刀水書房，1979
- ・辛島昇・奈良康明，『インドの顔』，河出書房新社，1999
- ・小谷汪之，『穢れと規範—選民差別の歴史的文脈』，明石書店，1999
- ・ウルワシー・ブターリア（藤岡恵美子訳），『沈黙の向こう側』，明石書店，2002
- ・スバドラー・ブターリア（鳥井千代香訳），『ダウリーと戦い続けて』，つげ書房新社，2005
- ・小谷汪之，『罪の文化—インド史の底流』，東京大学出版，2005
- ・小磯千尋・小磯学，『インド』（世界の食文化8），農文協，2006
- ・榎本美樹，『インドの「闘う」仏教徒たち』，風響社，2010
- ・金基淑，『カーストから現代インドを知るための30章（エリア・スタディーズ）』，明石書店，2012
- ・松尾瑞穂，『インドにおける代理出産の文化論』，風響社，2013
- ・井田克征，『世界を動かす聖者たち』，平凡社，2014
- ・田中鉄也，『インド人ビジネスマンとヒンドゥー寺院運営』，2014
- ・山下博司・岡光信子，『新版 インドを知る事典』，東京堂出版，2016
- ・リジー・コリンガム（東郷えりか訳），『インドカレー伝』，河出書房新社，2016
- ・拓徹，『インド人の謎』，星海社新書，2016
- ・上田真啓，『ジャイナ教とは何か』，風響社，2017
- ・井坂理穂・山根聡編，『食から描くインド』，春風社，2019
- ・辛島昇，『インド文化入門』，ちくま学芸文庫，2020
- ・佐藤大介，『13億人のトイレ—下から見た経済大国インド』，株式会社KADOKAWA，2020
- ・辛島昇，『インド史』，角川ソフィア文庫，2021
- ・水島司監修，『一冊でわかるインド史』，河出書房新社，2021
- ・小磯千尋・小松久恵編，『インド文化読本』，丸善出版，2022
- ・鈴木真弥，『カーストとは何か』，中央公論新社，2024

質問や相談の方法／Instructor contact

- ・連絡先：moodleに記載するメールアドレス
- ・授業に関する質問や相談などがある場合は，メールにて質問すること。